

ときを越え  
受け継がれるもの

## 薬師如来坐像（黒石寺）

＝ 水沢区黒石町字山内 ＝

奥州三十三観音霊場の一つ、黒石寺の本尊が薬師如来坐像である。貞観4年（862年）の胎内銘を持ち、日本最古の在銘木彫仏として、国の重要文化財に指定されている。

その造像年は、坂上田村麻呂が古代東北経営の拠点として築いた胆沢城の建置から数え、ちょうど60年後、胆沢城へのでこ入れが行われた時期と重なり、十二支による紀年法では、暦が一巡した還暦に当たる。奇しくも、蝦夷の英雄アテルイの死から60年後でもある。

カッラ材一木造で、像高126cmの堂々たる体躯と厳しい面相。その様相は、蝦夷と直接向き合った当時の東北経営を示しているといわれている。

その昔、33年に一度だけ拝むことが許されていた薬師如来坐像。このたび、東京国立博物館で開催される特別展「みちのくの仏像」に出展される。歴史的価値のある仏像は、今後も人々を癒し続ける。

※1月14日から4月5日まで開催され、東北6県を代表する仏像が集結



1 漆泊が施されている薬師如来坐像。その光背には小さな七仏薬師がついている 2 黒石寺の本堂「薬師堂」。毎年、旧暦正月7日から翌早暁にかけて行われる「黒石寺蘇民祭」が行われることでも知られている

広告